



目次

- | | | | |
|---|---|---|----|
| ●「必ず未来は拓ける」
高知県林業振興・環境部副部長（総括） 豊永 大五 | 1 | ●令和2年度（一社）高知県山林協会通常総会開催
（一社）高知県山林協会 総務部長 田島 史一 | 8 |
| ●山を診る
（株）四国トライ 事業部長 吉村 典宏 | 2 | ●第20回 森や自然についての
子ども達の作文コンクール | 10 |
| ●嶺北での一年を振り返って
高知県嶺北林業振興事務所 技師 森田 早紀 | 4 | ●テクノ ア・ラ・カルト
ー西方見聞 イタリア2ー
（一社）高知県山林協会 技術専門官 長澤 佳暁 | 20 |
| ●令和2年度 民有林森林土木優良工事・民有林林道
維持管理・民有林森林土木工事木材活用設計コンクールの
審査にあたって
コンクール審査委員長
高知県林業振興・環境部 治山林道課長 二宮 栄一 | 6 | ●県立甫喜ヶ峰森林公園から
指定管理者 （一社）高知県山林協会 川淵 しのぶ | 22 |
| | | ●動 向 | 23 |



「必ず未来は拓ける」

高知県林業振興・環境部副部長(総括)

豊永大五

今年度から高知県林業振興・環境部副部長としてお世話になっております。

就任時期は、新型コロナウイルス感染症対策で名刺交換もはばかれるような状況でありましたことから、ご挨拶も十分でないまま業務がスタートし、関係者の皆様には大変失礼をいたしております。お詫びを申し上げますとともに改めましてどうぞよろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症につきましては、ご承知のように世界中に広がりを見せ、健康面のみならず経済面へのダメージが大きくなっており、本県におきましても各産業分野で様々な影響を被っております。林業分野への影響については、少し遅れて現れるとリーマンショック時を参考に言われていましたが、既に木材需要の減少による影響が顕著になってきております。森林・林業・木材産業に携わられる皆様におかれましては、大変な思いをされておられることとご心労のほどお察しいたします。

我々林業振興・環境部としましては、事業者等の皆様に定期的に状況をお伺いいたしまして、必要な対策や予算措置を行っておりますが、これからも引き続き的確に対応してまいります。

さて、私は昨年度までの4年間、出身地でもある嶺北地域を担当する地域産業振興監として、嶺北地域の産業振興や地域づくりに携わってまいりました。嶺北地域といえば林業抜きには産業振興を語ることができない地域であります。担当する産業振興計画の嶺北地域アクションプランでは、林業クラスター化の取組や嶺北材の邸宅販売、木工品の製造販売、コンテナ苗の生産、シキミ・サカキの販売促進、木質バイオマス発電施設の整備など、多くの林業関連の取組の支援に関わらせていただきました。

また、任期中には、大豊町、本山町を中心に林地崩壊や林道施設への甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨が発生しました。その悲惨な状況と関係者の皆様の復旧への懸命な取組は、記憶に新しいところです。このことに関しましては、復旧工事にかかる規模が著しく大きいことから、本年度、国の直轄事業による早期かつ着実な復旧整備を徳島県と合同で要望いたしました。

産業振興計画につきましては、平成20年度、当時の政策推進課に配属され第1期の計画づくりに携わりましたが、PDCAサイクルによる進捗管理を徹底することによって、これまで成果をあげてきたと思います。

残念ながら、今年度から第4期計画がスタートしたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で計画どおり進めることが出来ない状況です。この影響がいつまで続くかも含め、林業分野における課題は決して少なくはありませんが、現状をしっかりと分析し、先を見据えた施策を的確に打ち込んでいくことで必ず未来は拓けると思います。

私は、これまで林業部門での勤務経験はありませんが、産業振興計画をはじめとするこれまで携わってきた様々な業務経験を生かし、微力ながら県の林業振興にお役に立てるよう頑張っております。

どうかよろしく願いいたします。

山を診る

(株)四国トライ 事業部長 吉村典宏

1. はじめに

自然が引き起こす土砂災害は、意外と同じ場所で繰り返し発生しています。それは、簡単に言えば土砂災害を起こしやすい地層がそこにあるため、地盤を構成する地層の特性や構造を反映しているからに他なりません。つまり、地層は土砂災害の大きな素因ということになります。そして、その地層を反映して作られたものが地形となるわけです。この「山を診る」と題した技術講座は、長い年月の中で造られた土砂災害の「痕跡」をテーマにして山の見方を学んでいただくものです。近年、集中豪雨に伴う浸水被害は毎年のように発生するようになり、各地で大きな被害を出しています。今回は、広域的な浸水被害を受けやすい場について、事例を挙げそこの地形的特徴などを紹介します。

2. 広域的な浸水被害の事例

ここで言う広域的浸水というのは、浸水域が河口から上流奥深くまで浸水するタイプのものとしておきます。四国における近年の広域浸水被害は、平成30年の7月豪雨における愛媛県の肱川における広域浸水が記憶に新しく、野村町やその下流の大洲市で大きな被害を出しています。この野村町や大洲市の浸水被害は、過去においても多くの履歴があり繰り返し発生している特徴があります。これは、周辺地形が雨水を集めやすく、加えてその出口が限られる「盆地」に背景があるものと思われる。



写真.1 昭和50年台風5号による日高村浸水被害¹⁾
また、高知県においては、いの町や日高村、そ

して佐川町などで度重なって浸水被害を生じています。写真.1は、昭和50年の台風5号による集中豪雨で発生した日高村岡花地区での浸水状況です。ここでは、R33号の跨線橋を残すのみでJR岡花駅やその周辺人家などは完全に浸水しているのが分かります。このJR岡花駅前を流れる日下川は、全長約11kmで本流の仁淀川に合流しますが、この岡花駅は、その中ほどにあたる河口から5.7km地点に位置します。当時の浸水域は、河口から約10km地点の佐川町加茂本村西地区まで至っていたといわれており谷奥深くまで浸水被害が及んでいたこととなります。また、隣接する佐川町やいの町においても谷奥まで被害を被ったことが、高知新聞や市町村史などに残されていますが、共通するものとしては、やはり先の肱川流域と同じように「雨水を集めやすく、その出口が一か所に限られたり閉塞されるような盆地状地形が1つの特徴になっていると思われる。

3. 広域浸水被害を生じる場の地形的特徴とその形成

ここでは、昭和50年の台風5号で大きな浸水被害を生じた町の1つである佐川町を中心に「伊野低地」と呼ばれる地形の特徴などについて整理します。

3.1 伊野低地とその成因

図.1は、昭和50年の台風5号で浸水した、いの町から佐川町にかけての地理院地図で、低地ほど水色が濃く、標高が高くなる山の稜線が茶色であらわされています。図示するように、いの町、日高村そして佐川町の低地を取り囲むように存在する稜線

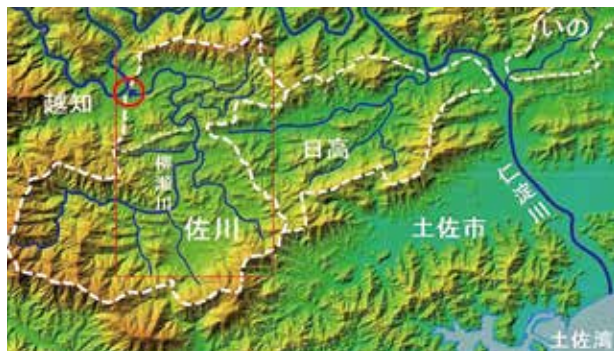


図.1 伊野低地周辺地形図²⁾ (赤囲みは図.3の範囲)

を白色破線で囲んでいますが、巨視的に見るとこの3つの区域は、南北を東西に連なる稜線に挟まれた一連の低地になっていることが分かります。このことからこの区域を一般的に「伊野低地」と呼んでい

ます。低地部分にはそれぞれ、宇治川、日下川、柳瀬川が流れ本流である仁淀川に流れ込んでいます。この東西に連なる低地や稜線の配列は、四国の北側を走る中央構造線から南の地層帯（西南日本外帯）に特徴的なものとなっています。これは南海トラフに沈み込む海洋プレートの動きが作る地層のシワ（図.2 参照）が基調となっており、伊野低地などは基本的にそのしわの溝の部分に相当するのです。



図.2 南海トラフ周辺地形³⁾

3.2 広域浸水被害を受けやすい場の特徴

ここでは、昭和 50 年の台風 5 号襲来時、山地にあって広域浸水被害が生じた佐川町を事例としてその特徴について述べます。図.3 は、その台風 5 号を受けて広域浸水被害を受けた佐川町での浸水域を佐川町史に基づいて地理院地図に加筆したものです。水色に着色した部分が浸水域となります。その浸水域は、仁淀川に合流する柳瀬川の合流点から上流約 13km 付近までとなっていて、支流の上流端までとなると約 14km に達しています。この広域浸水は、基本的に本流である仁淀川の氾濫で出口を



図.3 佐川町 S50 台風 5 号浸水域図⁴⁾

塞がれたこと、そして同じことが柳瀬川の支流で起きていたことが 1 つの原因であったと考えられますが、奥深くまでの「広域浸水」の要因はその地形にあったものと考えられます。図.1 を基に佐川町の地形を改めて見ると浸水域は、柳瀬川の出口付近を除いて完全に周りを山に囲まれた盆地となっている。②盆地の中心となる柳瀬川沿いを中心として平地(谷底低地)が形成されている。このような特徴があるため、もたらされる雨は確実に盆地内に集中することになり

ます。また、盆地の中心部となる柳瀬川添いは、その地形から周りからの流入土砂が流失しづらいために平地を作るので、河床勾配は当然緩くなって水はけの悪い地帯を広範囲に作ってしまいます。つまり、表面水が集中しやすい周りを山に囲まれ場所、河床勾配が緩く流下させる能力の低い河川、そしてその出口が限られそこが本流などの増水で閉塞を受けやすい地形的特徴が重なる場となっています。河川の勾配で見ると、柳瀬川は、河口から R33 号に至る約 9.4km の区間が 1000 分の 2.1、西山入口までとなると 1000 分の 3 を示します。一方、浸水履歴の多い近隣の日下川（日高村）や宇治川（いの町）では 1000 分の 0.6 程度となっています。この点からすると、比較的大きな河床勾配を持つ佐川町での広域浸水の要因は、やはり水を貯めやすい「盆地」（図.1）にあったことが理解できると思います。



写真.2 柳瀬川の氾濫で浸水した中心街⁵⁾

4. あとがき

これまでの経験からすれば盆地や盆地状の谷底平野での浸水被害は、対策を講じ排水条件が変わらない限り繰り返して発生することが予測できます。そしてその影響は、水はけが悪い地形的特徴から広範囲かつ長期にわたる事例が多いように思います。やはり、自分たちが住む地域やこれから住もうとする地域がどのような地形的特徴を有する場所なのか、加えて過去の被害やその特性などを総合的に理解したうえで、被害を受けない、または最小限に抑える「備え」と「行動」をとることが大事であると思います。

参考文献

- 1) 台風5号 '75 高知新聞社
- 2) 地理院地図識別立体図(加筆)
- 3) グーグルアース(加筆)
- 4) 地理院地図(加筆)
- 5) 昭和50年8月17日大原氏撮影写真

嶺北での一年を振り返って

高知県嶺北林業振興事務所 技師 森田 早紀

1. はじめに

昨年の4月から嶺北林業振興事務所で勤務しております。入庁して最初の2年は環境共生課に配属となり主にカーボン・オフセットや環境アセスメントの業務を担当していました。今回は、嶺北林業振興事務所に配属になってからの日々を振り返って書いていきたいと思います。

嶺北地域は、高知県の北部に位置しており、森林率全国 No.1 の高知県の中でもかなり森林が多いところです。そのため瀬戸川や汗見川を始め地域を流れる川がとてつもなく綺麗です！

異動後初めて嶺北を訪れた時に思ったのは「山が近い！」ということでした。主要道路からすぐそばに皆伐地が見えたり、毎日のように材を積んだトラックが走っており林業を身近に感じられる所です。



写真1 青色が美しい瀬戸川



写真2 道路から見える皆伐地

2. 一年目の仕事

異動して最初の年には、木材安定供給推進事業や緊急間伐総合支援事業といった補助事業を主に担当することになりました。それまで補助金関係の仕事を全くしたことがなかったので、手続きの流れも分からずややこしい用語ばかりで覚えるのが大変でした。また、作業道の開設や間伐施業をする場合には、指針や実施基準などで細かい要件が定められておりそれらも早急に覚えなくてはなりません。まるで受験生のごとく教えていただいた大事なポイントに線を引っ張って覚えていましたが、1つ覚えたら3つ忘れるという始末…。

そんな中、4月の初め頃に担当する林業専用道の現場へチーフが連れて行ってくれました。舗装道路を走っている時は、山がきれいだなあ〜などのん気にしておりましたが、舗装が切れたあたりから雲ゆきが怪しくなり、いよいよ専用道の起点という所に着くと「ここをこのまま行っちゃうの!？」と不安しかありませんでした。道幅は狭く、石がゴロゴロしており勾配は急だし、もちろんガードレール何かもあるはずなく…窓の外を見ると崖っぷち！そんなじょそこの絶叫マシンより怖かったことを覚えています。

昨年嶺北管内では、全部で3路線の林業専用道が開設されました。林業専用道とは、幹線となる林道を補完し作業道と組み合わせて森林施業をするための道の事で、10tトラック程度の走行を想定しています。少し大きめの作業道のような感じですよ。

3路線のうち1つは延長が3,000mを超える非常に長いものでした。現場は尾根沿いの比較的勾配が緩やかな所を通過していたのですが、土壌が赤土で水はけが悪く少し雨が降ると地盤がぬかるみ作業を進めるのが難しい状態でした。現場へ行った際には、チーフや先輩方がこれ知っちゃうかえ？と色々教えてくださいとでも勉強になりました。

この現場は延長が長かったので、初めのうちは行ける所まで車で行って後は歩いて作業現場へ行っていたのですが、だんだん斜面をそのまま降りた方が早いことにみんな気づきショートカットを始めました。しかし案の定帰りがつらい。(笑) そんなある日、作業をされていた方が近くにあった枝をワイルドに折り杖を作ってくださいました。本当にありがたかったです!! その杖は何度か捨てられそうになりましたが、今も倉庫の中で健在です。



写真3 開設中の林業専用道

また、別の現場では開設途中に流れ盤という非常に危険な地層が発見されました。流れ盤とは、写真4のように地層が山の傾斜と同じ方向に向かっている地形のことで、地すべりが起こりやすい危険な場所です。事前踏査するとはいえ、実際に山を掘り進めていかないと何が出てくるか分からない、危険と隣合わせの作業なんだと改めて感じました。



写真4 滑り岩地帯

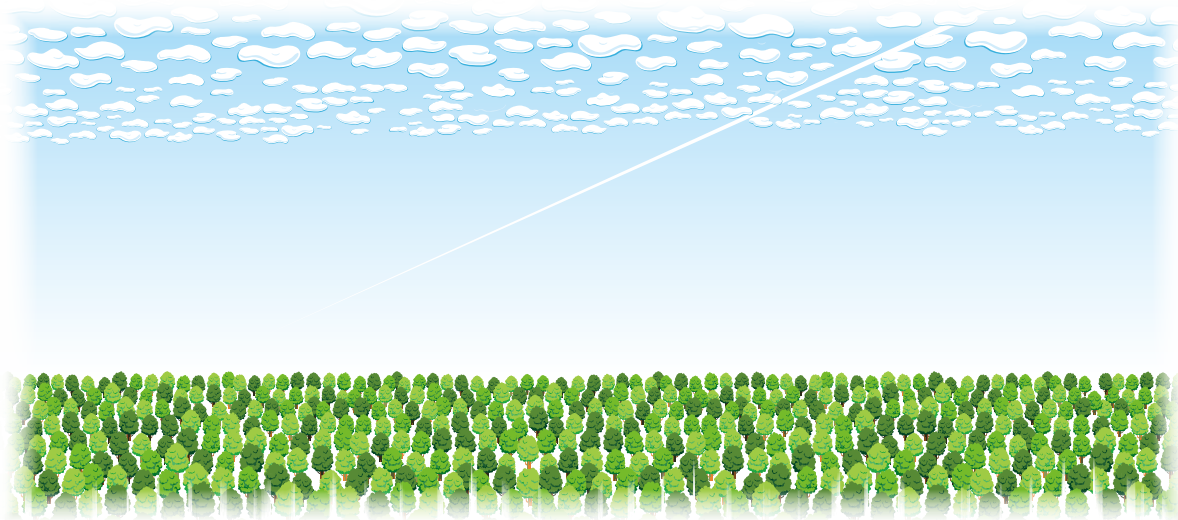
3. 終わりに



1年間で自分の担当現場以外にも色々な現場へ行くことが出来ましたが、場所が違えば全く違って自分の経験不足、未熟さを物凄く感じました。

この1年間右も左も分からない状態だった私に親身になって教えてくださいました周りの方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

嶺北2年目となった今年は、班が変わり保安林や特用林産を主に担当しています。まだまだ足りない部分ばかりでご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、日々成長していけるよう頑張りますので今後ともよろしくお祈いします!



令和2年度 民有林森林土木優良工事・民有林林道維持管理・ 民有林森林土木工事木材活用設計コンクールの審査にあたって

コンクール審査委員長

高知県林業振興・環境部 治山林道課長 **二宮 栄一**

一般社団法人高知県山林協会主催による、令和2年度 森林土木優良工事等コンクールが開催され、去る8月28日の山林協会通常総会において入賞者が表彰されました。

本年度、コンクールの対象となった森林土木工事は、平成31年度中に完成した民有林治山工事65件、民有林林道工事24件でした。また林道維持管理部門は、県下983路線のうち供用開始後3年以上経過し、延長2,000m以上のものが対象となりました。

この中で、各林業事務所長から推薦のありました工事及び路線を厳正に審査しました結果、優良工事治山部門21件・林道部門9件、林道維持管理部門2件、木材活用設計部門3件、計35件を入賞とし、表彰することに決定いたしました。



鏡横矢災害関連緊急治山工事

表彰を受けられた皆様方に改めてお喜びを申し上げますとともに、それぞれの部門での真摯な取り組みに対しまして心から敬意を表します。

優良工事の審査に当たりましては、工事の出来栄を主に、施工技術・施工管理の適否等を選考基準とし、また、近年の環境保全に対する関心の高まりの中で、自然環境に配慮した工法や施工方法が求められていることから、環境への配慮や周囲の自然景

観との調和がとれていることも審査のポイントになりました。さらに、県産木材の利活用が、間伐を推進し森林の各種機能を高めると共に、県内木材関連産業の振興にも寄与することから、木材を積極的に活用した工事についても評価をしました。



土居柳野線3工区

次に、林道維持管理部門では、林道が適正に維持管理されていることに加え、市町村及び地域住民の方々が維持管理に積極的に取り組まれていることなどを評価のポイントに審査をしました。



ふるさと林道平安線

最後に、木材活用設計部門では、工法の技術的な合理性、景観や自然環境との調和、県産木材活用への寄与などを総合的に判断し評価をしました。



大正北の川林地荒廃防止工事

近年の公共事業においては、品質確保のための施工管理や安全管理などのプロセスも重要となっております。施工者の皆様方におかれましては、今後とも技術力の向上に努められ、目的物を立派に仕上げて頂きますようお願いいたします。

さて、近年全国各地で起きているゲリラ豪雨により多くの災害が発生しており、高知県においても、

7月の梅雨前線豪雨により県内各地で災害が発生しています。加えて近い将来発生するとされる南海トラフ地震でも多くの山地災害が予想されます。

これらの懸念の中、県民の生命財産を守り、県土を保全するため、治山対策をさらに進めて行く必要があります。

林道については第4期目となります産業振興計画では、林業分野の施策の展開において、原木生産の拡大で高性能林業機械の導入等による、10tトラック道等の整備が必要不可欠となります。また、国道や県道・市町村道が災害により通行止となった際には迂回路としての役割を果たすなど、地域生活に欠かせない施設です。

森林土木事業は、県民の安心・安全や林業の振興・成長産業化の礎となる事業です。今後も、事業の推進へのご理解・ご協力をお願いしまして、簡単ではございますが審査報告とさせていただきます。

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧 (治山の部)

安倉災害関連緊急治山工事	サクセス工業株式会社
魚梁瀬 No.2 水源森林再生対策工事	湯浅建設株式会社
山口林地荒廃防止工事	有限会社 山又建設
貝川林地荒廃防止工事	有限会社 吉良川建設
与床山地災害(県営県単)工事	株式会社 四国ネット
鏡横矢災害関連緊急治山工事	サクセス工業株式会社
大川(加集)水源森林再生対策工事	有限会社 山中建設
押谷林地荒廃防止工事	明治建設有限会社
立川上名災害関連緊急地すべり防止工事	木本工業株式会社
中内地すべり防止工事	有限会社 ムクタ工業
中村林地荒廃防止工事	大川建設株式会社
向口林地荒廃防止工事	株式会社 不二土木
小申田復旧治山工事	有限会社 伊東組
小日浦復旧治山工事	有限会社 ムクタ工業
葛地すべり防止工事	木本工業株式会社
戸川復旧治山工事	大東建設株式会社
中の川災害関連緊急治山工事	杉本土建株式会社
大島林地荒廃防止施設災害復旧工事	協業組合 テスク
橋浦 No.1 災害関連緊急治山工事	協業組合 テスク
白浜林地荒廃防止工事	株式会社 四国ネット
橋浦 No.3 災害関連緊急治山工事	株式会社 小島組

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧 (林道の部)

森林管理道島日浦線工事	有限会社 礪部組
森林基幹道小川線1工区工事	森本産業有限会社
森林基幹道小川線2工区工事	有限会社 誠興建設
森林基幹道河口落合線3工区工事	有限会社 中澤建設
森林基幹道寒風大座礼東線2工区工事	有限会社 岡本建設
森林基幹道土居柳野線3工区工事	国友商事株式会社
森林管理道シバゴヤ線1工区工事	株式会社 西森建設
幹線林道檜原・東津野線工事	岩井建設株式会社
幹線林道中村・大正線3工区工事	豚座建設株式会社

民有林林道維持管理コンクール受賞者一覧

小日浦線	越知町
ふるさと林道平安線	大月町

民有林森林土木工事木材活用設計コンクール受賞者一覧 (治山の部)

山口林地荒廃防止工事 (安芸林業事務所)	藤谷 新
大正北の川林地荒廃防止工事 (須崎林業事務所)	山本 裕太

民有林森林土木工事木材活用設計コンクール受賞者一覧 (林道の部)

森林基幹道土居柳野線3工区工事 (中央西林業事務所)	中川 賢
----------------------------	------

令和2年度(一社)高知県山林協会通常総会開催

一般社団法人高知県山林協会 総務部長 田島 史一

高知県山林協会の令和2年度通常総会が、8月28日、ザ クラウンパレス新阪急高知に於いて開催されましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、ご来賓の方々のご招待を取りやめ、市町村、森林組合の会員のみによる縮小・簡素化での開催となりました。

開会にあたり大石会長から「会長を仰せつかっております仁淀川町の大石でございます。本日、令和2年度の通常総会を開催しましたところ、会員の皆さまには、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。



挨拶する大石会長

コロナ禍での総会となり、会員のみでの開催とさせていただきます。ご理解を願いたいと思います。



子ども達の作文

また、例年執り行う、「治山林道工事等の優良工事コンクール」、「森や自然についての子ども達の作文コンクール」の表彰式も、安全第一を考え、自粛をさせていただきました。入賞者の皆さんへは後日、個別にお伺いをし、表彰状の贈呈をさせていただくよう予定をしております。



優良工事

今年の梅雨は例年に比べてかなり長かったし、雨も降り続けました。局地的な豪雨も全国各地で多発しました。

熊本県の球磨川をはじめ多くの河川での氾濫や、山崩れ、土石流の被害を見るにつけ、あらためて、治山・治水対策の充実と、災害に強い森づくりの重要性を強く思うところです。

当協会は、こういった自然災害の発生に際し、微力ではございますが、県や市町村の治山や林道などの、復旧計画のお手伝いをさせて頂くことを使命としております。

会員の皆様には、どうか当協会の事業活動にご理解を賜り、今後とも、力強いご支援・ご協力をいた

できますよう、お願い申し上げます。

次に令和元年度の決算状況についてご報告します。まず、一般社団法人への移行により、義務づけられております公益目的事業につきましては、本年度も、ほぼ計画どおり実行することができました。



また、収益事業のコンサルタント業務につきましては、県や会員の皆様から、災害復旧事業等の測量・設計業務を順調に受注できましたことにより、まずまずの決算をあげることができました。



本席をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

本日は、令和元年度の事業報告及び収支決算、令和2年度の事業計画及び収支予算など、6件の議案をご提案させていただきますが、なにとぞ適切なご審議を賜りますよう、よろしく願いをいたします。

なるべく短い時間で議事を終えられたらと考えています。

ご協力のほどお願い申し上げます、簡単で言葉たりませんが、開会のご挨拶とさせていただきます。」との挨拶がありました。

会長挨拶の後、議事に移り、議事では令和元年度

事業報告及び収支決算、令和元年度公益目的支出計画実施報告書、令和2年度事業計画及び収支予算等全6議案が原案通り承認されました。



6号議案では、次の事項が満場一致で決議され、関係各方面に要望活動を行うことといたしました。

- 一、国土の保全と国民生活の安全を図る治山対策の積極的推進
- 一、森林の整備や中山間地域の活性化と生活環境の改善を図る路網整備の積極的推進
- 一、森林・林業・木材産業振興策の積極的推進

例年、議事に先立ち、「森や自然についての子どもの作文コンクール」と「民有林森林土木優良工事等コンクール」表彰式を行っており、子ども達やそのご家族と先生方、優良施工業者等多くの方々に参加して頂いていましたが、今年は表彰式を自粛しましたので寂しい限りです。

来年は、ご来賓の方々、コンクール受賞者の方々に参加して頂ける総会が、開催できる状況になっていることを願ってやみません。



第20回 森や自然についての子ども達の作文コンクール

審査委員長講評

高知新聞社 営業局長 高橋敏彦

「あ、おった。きれいやね。」

審査のために読み始めた最初の作品の、1行目でいきなり心をつかまれました。普段子どもたちの文章に触れることが少ないので、なかなか大人では書けない、ド直球の書き出しにワクワク。他の作品も含めて、読むのが楽しみになりました。

この作文コンクールも、今年度で20回目を迎えましたが、今年はコロナ禍で休校も続き、みんなが応募してくてくれるのだろうか、と心配していました。結果的に180作品を寄せていただき、ホッとしましたし、何より皆さんの文章から、山や川、海、そして生き物など自然に対する思いが熱く伝わってきたことを心強く感じました。ホタルやイノシシ、カメノテ、ワラビ、田植え、川遊び、学校林…いろいろな生き物や行動・活動を通じて自然と触れ合うことが生き生きと表現されていて、それを通して自然を大切にする心も育まれているのだと感じられました。そして、これらの経験がそれぞれの財産となって、次の世代へも引き継いでいってくれと信じています。

新型コロナ対策で、ソーシャル・ディスタンス、他人との距離を保とう、三密は避けよう、という「新しい生活様式」が提唱され、「人と人との関係」は変わらざるを得ないでしょう。しかし、皆さんの作文を読んでいると、「人と自然との関係」は大きな変化はないのかな、と感じました。人との距離感が遠くなってしまう分、逆に自然との距離は近く、親しく、大切になるのではないかとすら思います。そんな時代に、自然を大事にする心根を持っている皆さんは心強い限りですし、いつまでも持ち続けてほしいと願っています。

豊かな自然に囲まれているから、自然に対して「あって、当たり前」という感覚になってしまいがちな高知での暮らし。180作のメッセージに触れることで、日々の鈍感な生活に、感度のスイッチを入れ直そうと思った2020年夏の午後でした。



山の大賞（高知県山林協会会長賞）

小学校の部

中学年の部

いなかはいいよ

大豊町立おおとよ小学校 四年 ^{なか}中 ^{やま}山 ^{けん}堅 ^と仁

ぼくは、大豊町のいなかに住んでいます。家の近くには、友だちも住んでいないし、近所の人も少ないです。今、さかんに言われているソーシャルディスタンス、人と人が遠いということは、ずっと前からのことです。

でも、人と人の関係は、近くに感じます。

ぼくには、おじいちゃんやおばあちゃん、近所の人とやることがいっぱいあります。

春には、山へたけのこや山菜を取りに行き、五月になると、茶つみや田植えがあります。

田んぼは、おじいちゃんが機械で植えて、後からぼくも行って、ほ植をします。ほ植は機械では植えられない角をはだしになって、手でていねいに苗を植えていくことです。グニョグニョの田んぼに足を入れて植えるのは、始めはおもしろいけど、とても大変です。

でも、秋になると、おいしいお米ができます。ぼくは、水泳をしています。このお米を食べると、し合の時にもパワーが出ます。

それから、六月には、日本で大豊町だけで作られているご石茶作りも始まります。

ぼくのお母さんは、ご石茶の組合で働いているので、ぼくも小さい時から何回も、ご石茶作りを見学に行きました。

ご石茶作りは、大変です。六月のつゆのころに、お茶葉をかりとります。八月のとても暑い時に、朝早くから、ていねいに一つ一つ干していきます。全部手作り、本当にいいお茶です。ぼくは、全国の人に知ってもらいたいと思います。

ぼくの住む大豊町には、水族館も遊園地も何にもありません。だけど、一年中自然の中のイベントがあります。ぼくは、けっこうそれが好きです。おじいちゃんの手つだいをするのが好きで、大豊町が好き。ぼくにとっては、とてもいい町です。いなかは、いいよ。ぼくは、おすすめします。そして、たくさんの人がくればいいのになあとと思います。

コメント

「人と人が遠い」けど、「人と人の関係は近くに感じます」。コロナと共生する時代に、大切なことだと思います。そして「おじいちゃんやおばあちゃん、近所の人とやることがいっぱいあります」って、楽しい毎日が目に浮かびます。素敵な「いなか」であり続けて、町外からの交流人口も増えていくといいですね。

高学年の部

私のふるさととは一生の宝

梶原町立梶原小学校 五年 ^{なか}中 ^{こえ}越 ^さ沙 ^{ゆき}侑



私が住んでいる梶原町は、自然が豊かです。高知市などに比べると小さな町かもしれませんが、小川が流れ、森に囲まれていてそしてなによりそれぞれ一人一人が自然を守ろうとしています。今回は、私の大好きな「森」について書きたいと思います。

私が森が好きなわけ一つ目は、森に囲まれることで自然に優しいことです。梶原では、バイオマス発電や風力発電、太陽光発電、小水力発電など二酸化炭素を出さない発電をしています。少し二酸化炭素が出たとしても森のすがが酸素に変えてくれます。二酸化炭素を出さないことで、梶原の町の空気はとてもきれいです。

森が好きなわけの二つ目は、梶原の自然を守ろうとする人達がいることです。梶原では幼稚園の年長で森にいきます。五年生で木を切る体験があります。私はそういう体験は、森のことを知る第一歩だと私は思っています。

森が好きなわけ三つ目は、楽しいからです。森は、木かげやつるなどがあるいろいろな木や草が集まってできています。つるをまいて作るターザン・木のブランコなど自然で遊ぶことはとてもおもしろいです。つるのターザンは、自然でできているので乗る時は大変だったけど、乗って森の風がふいた時は、とても楽しかったです。

私は最近、私の家族の土地で、私とお父さんの趣味のマウンテンバイクのコースを作っています。下の平地の方は練習場・妹達の遊び場として作っています。今でもできあがりがとても楽しみでワクワクしています。

このままの自然を守るにはどうしたらいいかと最近考えています。ゴミをひろったりすることも大切ですが、でも私は自然を楽しむことや自然をほこりに思うことも大切だと思います。自分が出来る事をしていきたいです。

コメント

森が大好きな理由が、自然に優しいから、自然を守ろうとする人たちがいて小さい時から体験してきたから、そして何より「楽しい」から。つるで作るターザン・木のブランコで遊ぶ時間、お父さんと一緒にマウンテンバイクのコースを作る時間、本当にぜいたくな時間だと思います。楽しみながら、いつまでも自然を大切にしてください。

高学年の部

わらびセンサー発令中

高知市立久重小学校 五年 ^{たけ}武 ^{ぼやし}林 ^ほ青 ^し星

「お母さんわらび、採りに行くで。」

春になると、家のうら山に登ってわらびを採るのが私の楽しみになっている。採ったわらびは、おけに塩漬けにして長期保存する。雨がたくさんふった後は、わらびがグッと伸びて先の方がほくほくとなっている。また、草の中にかくれているわらびは、太っていてやわらかく、折るとポキッと気持ち良い音が鳴る。

わらびは、冬の間土の中で元気パワーをたくわえて春にそなえる。そして、日に日に気温があたたかくなるとあたり一面わらびだらけになる。私にはわらびセンサーがついているのでわらびをふまずに進むことができる。出てきたばかりの赤ちゃんわらびも、見のがさない！

「ほしちゃん、そこのわらびのびちゅうで。」

母が言ったわらびに手をのばしてつかんでみると、

「お母さん、もうちょっとのばしたほうが、いいんじゃない。」

長さは、指が覚えている。私のこしにまいているかごをのぞいて母が、

「上手にわらびとっちゅうね。どっさりある。」

「ほしに見つけてほしいがよえ。」

やっぱり私のわらびセンサーはピンとはっている。

昔から山でくらす人たちはこうして山のめぐみをもたらして生活してきたようだ。私は地いきの方に保存食について教えてもらった。春とれた物をくさらないように長く置く方法。私はこのような昔の人のちえをもっと習って人に伝えたい。

私は、久重地いきをおばあちゃんや姉といっしょに散歩するのが大好きである。いろいろな植物に出会えるし、夜には川でホタルが見えるし、その自然いっぱいの久重の里山を大切にしていきたい。

コメント

「わらびセンサーがついているのでわらびをふまずに進むことができる」って素晴らしい！毎年、わらびを採って、生活と結びついているからこそ身についた“センサー”でしょう。それだけでもスゴいのに、保存食も習って、伝えていきたいという気持ちを持っている。ホタルや山菜と一緒に、いつまでも大切にしてほしいと思います。

高学年の部

大好きな魚梁瀬

馬路村立魚梁瀬小学校 六年 うじ はら かのこ
氏 原 佳乃子

私は、小さい時に東京から魚梁瀬に来ました。来たとき、私はびっくりしました。辺り一面の山、まわりを山に囲まれていて、空を見ると、とんびがくるくるとまわっています。まるで、アニメの世界みたいだなと思いました。特に、アニメの世界みたいだなと思ったところは、千本山です。千本山には、二つの木がいっしょになった親子杉や、中が空洞になっていて中に入ることができる根上がり杉があって、まるでトトロが住んでいる森や、もののけの森みたいだなと思いました。私は、こんなにいっぱい木があるのは、アニメや本でしか見たことがなかったのでびっくりしました。

それに、私は鳥が好きなのでとんびがいるのはいいなと思いました。私が以前に住んでいたところは、はととかカラスばかりだったし、鳥の鳴き声もカラスの鳴き声ばかり聞こえていました。ここでは、ウグイスやセキレイなどいろんな小鳥の声が聞こえてきます。

そして、もっとうれしかったのは、川があることです。川の水は気持ちよくて好きだし、浅いところで足だけ入れると、ちっちゃい魚がきて、ちょんちょんと足を突っついたりします。川の水は、とてもきれいで川底もよく見えます。少しだけ上流に行くとそんなところがたくさんあるのです。

魚梁瀬には、魚梁瀬ダムという大きなダムがあります。人工のものですが、自然の中にとけこんだとても、きれいなダムです。

私は、ここに来て最初は少し不安だったけれど、私の大好きなアニメや本の世界みたいで、美しい鳥の鳴き声が聞こえる魚梁瀬が大好きです。そんな自然いっぱいな環境を育てている森林はすてきだなと思いました。

コメント

東京という大都会から魚梁瀬への引っ越し、本当にびっくりしたでしょう。しかし、その上で、千本山や魚梁瀬ダム、小鳥やちっちゃい魚たちを、アニメや本の世界と重ね合わせて楽しんでいる様子が目に浮かびます。都会での暮らしも知っているからこそ見える自然の良さがあると思います。魚梁瀬杉に囲まれた生活を楽しんでください。

高学年の部

森や自然を大切に

南国市立久礼田小学校 六年 わ だ み ゆう
和田美侑



「無の時間をします。」と教頭先生が言いました。それは、音楽の時間が少しあまった時でした。無の時間は、音も声も出さずに何分間静かにできるかをはかりながらも心を落ちつかせる時間です。私はその時、自分の席にはすわってはいけなかったの、となりのゆかにすわってずっと静かにしていました。すると私の目にあるものがとびこんできました。それは、音楽室のまどから見えた景色です。とてもきれいな緑の森林の景色が見えました。「きれいだな〜。」と私は、思いました。その時私は、このようなことを感じました。それは、「もしも地球温暖化や地震でこの森林や自然がなくなってしまうたらどのような感じになるのかな？たぶんこんなきれいな様子じゃないよね。」と思いました。そして私は、ふとあることを思いました。

「地震は防げなくても、地球温暖化は防げる。私ができないことが一つあれば、できることが一つある。」と思いました。それは、

「ゴミひろい、リサイクル、リデュース、リユースまた、無駄遣いをしない。」です。

私は、臨時休校中に、オフィスパークの所にある川に、入って見ると、プラごみがたくさん落ちていました。私はなんとかがんばってひろおうと思ったけどごみをひろうつもりで来たわけではなかったので、ひろえませんでした。私は、その時実感しました。

「こんな身近なところにも、温暖化の原因があるんだ」と。

森や自然は、人間だけのものではない。森や自然は、生き物や人間のもの。地球は、人間のものだけではなく、生き物や人間のものです。

このような地球温暖化なんかが発生した時には、人間は、生き物の中でも一番恐ろしい存在。例え毒をもっていたり肉食動物からしても、人間は、おそろしい存在。森や自然からしても人間は、おそろしい存在なんだと私は実感しました。

コメント

「森や自然からしても、人間はおそろしい存在なんだ」という究極の言葉で締めくくられた作文にすこみを感じました。頭で考えただけでなく、川でのプラごみの存在からも実感し、「無の時間」にきれいな景色を見ながら、温暖化防止に思いを至らせる。どうすれば「おそろしい存在」じゃなくなるのか、考えて広めていってほしいと思います。

中学校の部

目の前に立つ山

高知市立鏡中学校 一年 カーン・マヤ・エリザベス



朝起きて、窓に視線を移すとき、一番初めに目に飛び込んでくるのが「国見山」だ。私はこの山の景色を、生まれたときからいったい何度見てきたことだろう。

私たちはもっぱら「国見山」という名前に親しんできたが、別名は雪が光る山と書いて「雪光山」だ。平地ではめったに雪が降らない高知だが、この山では冬になるとてっぺんに雪が積もって、別名のように白く輝く。

この山は、我が家の真正面にドカンと座っている。吉原地区と柿ノ又地区にはさまれるようにあり、高さ九三四メートル、先が栗の実のように尖って、自分の頭より低いところに住んでいる私たちを見下ろしている。そばに住んでいると、数字よりもっと高く感じられる。

日本一の富士山じゃあるまいし、ほかの山とどこが違うのかと思う人もいるかもしれない。確かに、全国を探せば、同じ名前の山なんていっぱい見つかる。一見、何のへんてつもない山だ。

しかし、この山は私にとって特別だ。この山は私の人生にずっとついてくれている。窓に目をやると、いつも私を見守ってくれている。それだけでなく、私の生活にも多く関わっている。

何より、私たち家族の楽しみになっているのはその景色だ。四季を通して、豆つぶのように小さく見える国見山の木々が、ころころと美しく色を変えていく。春の山桜や秋の紅葉、そして冬の雪景色などだ。

国見山は私たちの家の西側、太陽が眠りにつく方角にある。時々、母が外から手招きをしながら、「来て来て！」と私を呼ぶことがある。行ってみると、太陽が沈んだばかりの空が目に入る。陽の光を残して雲は桃色に染まり、空はまだ赤みをおびている。母と一緒にそれを見ながら、ああ幸せだな、と思う。

美しい国見山に、家族そろって登ることもある。もう十回以上登ったと思う。中でも、毎年元日の朝、初日の出を見にこの山に登ることが、我が家の一年で最初の行事だ。毎年ものすごく寒くてガタガタふるえるけれど、頂上でチョコレートをかじりながら太陽が顔を出すのを見る気持ちは、とても言葉では表せない。

「国見山」といっても、国が見渡せるわけではない。調べてみると「国」というのは高知市の市街地のことらしい。国見山の頂上に立ち、霞がかかった高知市の街並みを見ていると、これは国と呼ぶのにふさわしい、という気がしてくる。手前の下の方には、白い屋根の我が家が見える。あれ、あんなに小さかったっけ、とおかしくなる。もう一つ、いつも思い浮かべる。この頂上から我が家につながるロープウェイができれば、さぞかし楽しいだろうな、と。

コメント

「我が家の真正面にドカンと座っている」国見山。こんなシンボリックな存在があり、四季を感じながらの生活は、本当にぜひいたくだと思います。太陽が沈んだばかりで残光に映える雲を、お母さんと一緒に見て「ああ幸せだな、と思う」豊かさ。決して「何のへんてつもない山」ではないし、いつまでも特別な存在であり続けるはず。確かに、頂上からのロープウェイがあれば、もっと楽しいでしょうね。

中学校の部

沢渡茶と出会って

高知市立旭中学校 一年 マドン・ティリー



「温かいお茶をどうぞ。」

「あっ、おいしい！」

この一言から始まった出来事がきっかけで私の将来の夢や自然に対する思い、理解力が変化しました。二年前、茶農家の岸本憲明さんがつくっている「沢渡茶」と出会いました。その頃、緑茶はあんまり飲んだことがなくて、香ばしくて優しい味がする沢渡茶を飲んだ瞬間、私は沢渡茶が大好きになりました。

岸本さんは高知県仁淀川町の沢渡でお茶作りに励んでいます。過疎化、高齢化が進み、茶農家を辞める人も多い中、伝統ある沢渡のお茶作りが途絶えてしまうと危機感を持ち、おじいちゃんの茶畑を受け継いで茶農家になったのだそうです。

綺麗な緑色をした茶畑と、清らかな仁淀川が流れている山奥の自然豊かな場所。私はどうしても行ってみたいくて、去年に家族で沢渡の茶畑を見に岸本さんを訪ねに行きました。

そこで実際に茶畑を見せてもらおうと、思ったより急斜面で驚きました。過酷な労働の中、愛情を込めて汗を流しながら一生懸命にお茶を育てている、岸本さんの姿が思い浮かんできました。それと何年間か放置されている樹と、岸本さんが育てている樹を比べると、放置されている樹は手入れするのだけで大変そうでした。自然を大切に育てるのは素敵だけど、とても大変なことだと思い知らされました。

私は沢渡の歴史にも興味を持ったので、岸本さんが沢渡の歴史の本を貸してくれました。先人たちがお茶作りをする中で沢山の失敗や苦労があったそうです。先人たちのおかげで今の沢渡茶があることに感動しました。岸本さんも十年前のお茶作りを始めたばかりの頃は、特に天気の関係でどのタイミングで世話をしたり、肥料をあげたりしたらいいのかを考えるのに苦労したと言っていました。このことから本当に自然と上手に付き合うのは難しいということが、すごく伝わってきました。

そして私は沢渡での経験から、自然のことをきちんと知ってあげることも大切だと思いました。鳥、草花、天気等に興味を持つようになり、図鑑を読んで環境問題や絶滅危惧種などについて深く知りました。生き物を観察しているうちに、何だか偉大なものに囲まれているようで自然を尊敬するようになりました。私達人間は今まで地球温暖化や色々な自然破壊をして、自然に悪影響を及ぼしていました。そんな過去を反省して、人間はもともと自然の一部だということを、当たり前だけど忘れないで生活しようと思いました。

私は沢渡茶との出会いがなければ、こんな発見もできなかったらと思う。私はこの出会いを大切に、自分の子供や孫にも自然からの贈り物は素晴らしいということを知らせたいです。これから私は先人たちが造り上げた大地や自然に感謝し、尊敬する岸本さんと協力して、沢渡の茶畑を守っていける茶農家になりたいです。

コメント

一つのお茶との出会いから、仁淀川町の自然を知り、鳥や草花、天気等に興味を持ち、環境問題や絶滅危惧種にまで思いが広がる。そして何より岸本さんという方に会ったからこそ、ここまで大きな影響を受け、素晴らしい発見につながったのでしょうか。沢渡の歴史を知り、今の沢渡茶があることに感謝し、それを引き継ぐ茶農家になるという目標にまで高めたことに敬意を表します。

中学校の部

自然とスマイルラン

高知県立高知国際中学校 二年 ^{かみ}上 ^{おか}岡 ^{まど}円 ^か嘉



「この道、まだまだ続くな。」

「本当に長い。くねくね道だらけ。」

私は、待ちくたびれていた。弟は、身乗り出し、まだかまだかと地図とにらめっこ。母は坂道に負けないよう、力強くアクセルを踏み、ワイパーを最大限に動かしていた。

私達は、奥四万十トレイルレース in 松葉川へ行く途中だ。この日はあいにくの雨で、雨に打たれながら、道をかけあがる。山道はくねくね、でこぼこしていて、まさに「田舎道」。しかし、自然が作り上げてきた風景は幻想的な空間を生み出していた。がたがた道ながら、ようやく会場に着いたときは、肩の荷がおりひと安心した。一時間半も自然と向き合いながら道を通るのは初めてだった。

次は、自然と共に走る。あのような山道を三キロメートルも走るとなると、とても緊張した。しかも、雨のため、地面はべちゃべちゃですべて転んでけがをしそうだった。そうしているうちに、スタート時間が近づいてくる。弟は冷えて固まっていた。

「ヨーイ」

心の中がぞくぞくひやひやした。

「パフ。」

ホイッスルが響き渡った。私は山の中に突進した。森の中に入ると、私達が日頃生活している世界とは違った神秘的な雰囲気に包まれた。そこら中緑がいっぱい、心が和まされ、最高の場所だった。空高く上る木は果てしなく続くように感じ、つい見とれてしまった。自然に囲まれ、ビチャビチャという足音と共に、リズムカルに走ることができた。そのまま気持ち良くゴール。順位は何と三位で、今までに感じたことのない、すがすがしい気持ちだった。自然と一体になって走れ、ファンタスティックな旅となった。

次いで、弟もゴールし、低学年の部で一位だった。白い歯を見せ、ほほえみながらガッツポーズをしていた。すると、母とカップを着た三歳の弟が、

「ねーね。おつかれ。早かったね。」

とびしょぬれの体で言った。自然に体がほっこりした。びしょびしょになってまで応援してくれたから、上位にたどりつけた。心の底から感謝した。心がオレンジ色に輝いた。

その後、松葉川温泉に入った。硫黄の香りのするお湯は、肌がすべすべになった。肩の力が抜けて、ほっとし、まるで雲の上にいるような感覚だった。日本最後の清流四万十川。露天風呂からながめる、その川は、人々を幸せにしてくれるまほうのようなものをもっていた。だから、世界へと四万十川の情報を発信し、観光客が増えてほしい。

おなかのチャイムが果てしなく鳴っていた。あったかご飯をもぐもぐ食べていると、弟が、

「楽しかった。次も一位とりたい。」

と満点笑顔で言っていた。自然と走ることは、走りながらパワーをもらえる貴重な時間だと感じた。

コメント

雨の山道を3キロ、街中のジョギングでは得られない、トレイルランならではの楽しさと厳しさが入り交じった時間だったと思います。森の中の神秘的な雰囲気に包まれ、自然との一体感を楽しみながらの3位入賞は立派。高知市に暮らしているても四万十川のよさを発信して欲しいし、自然と走り続けて、パワーをもらって欲しいです。弟さんの1位にも拍手。

中学校の部

未来への約束

土佐市立高岡中学校 三年 石元 萌 愛



「ザー、ザブーン。」毎日違う顔をして、いつまでも眺められて、心を落ちつかせてくれる海が、今日も美しい音色で歌い続けている。空の青とは違う海の青とのコントラストが美しい。しかし、そんな海はまた、時として、激怒にも似た形相を見せつける。

私が四歳の時、「明日は釣りに行って来るからね。」と言って出かけた祖父が、帰ってこなかった。そしてもう、二度と会うことはできなくなった。祖父の乗った船が、高波にさらわれ、転覆したのだ。

祖父の大好きだった海が、祖父を襲った。消えた船と共に、私の心は深く沈んだ。しかし、「海がおじいちゃんと友達になりたくて連れていったのかもしれないね。」とやってくださった方がいた。もしかしたら、祖父は、今は大好きな海と一緒にいられて嬉しいのかもしれない。そう思っている。

祖父とは、よく家の近くの山に登って、山菜を採ったり、野イチゴを摘んだりして過ごした。その山に登ると、祖父との思い出がよみがえり、また一緒に登りたいなあと感じてしまう。私は小さかったが、その頃のこととは鮮明に覚えていて、中学三年となった私がまた悲しみにくれる。

それから二年後の冬が終わりを告げようとした、三月十一日、東北を中心に地震が起こり、大津波が一带を襲った。こうして東日本大震災は何千人、何万人もの尊い命を奪い、凄まじい状況がメディアを通じて私たちの前に繰り広げられた。幼い私でも強い衝撃を受け、胸が苦しくなったことは頭から離れない。

自然災害は、この七月にも、熊本をはじめとする九州地方に襲いかかった。豪雨は濁流となり、また命は奪われた。ご冥福をお祈りしながら、それでも私は、自然が大好きで、自然に引き寄せられるのは何故だろう。父と船で釣りに行く。家族で山道を散歩する。

それはきっと、海や山に行けば、祖父に会える、話を聞いてもらえる、何かのアドバイスがもらえると思えば安心できるからだろう。だから、嬉しいときも悲しいときも会いに行きたくなる。

いつも見守ってくれている祖父に恥じないように、自分に誇りを持てる人生を歩みたい。それは祖父への一番の恩返しだと信じている。

私の祖父をはじめ、多くの命は海へ帰ったが、海を愛する気持ちを私は忘れたくはない。

自然と共に生きる一私を豊かに育ててくれた、美しい海、山、川…とのこの大切な約束を私は、未来へ向けて結ぼうと思う。

コメント

お祖父さんを海で亡くすという辛い体験を持ちながらも、お祖父さんとの山での思い出が色あせることはない。東日本大震災や各地で起こる豪雨災害、そして想定されている南海トラフ巨大地震など、自然は優しい反面、「激怒にも似た形相を見せつける」。それを知った上で、山から川、海と連なる自然の豊かさとともに未来へ進んでいく、力強い決意を頼もしく思いました。

テクノ ア・ラ・カルト

—西方見聞 イタリア2—

一般社団法人高知県山林協会 技術専門官 長澤佳暁

「旅のふれあい (人、景色)」について、イタリアへの旅の続編 (フィレンツェ、ローマ) です。

美術作品とのふれあい

(1) フィレンツェのミケランジェロ

フィレンツェといえばミケランジェロの「ダビデ像」(写真1左下)です。この像、野外に複製が2体あり観光客の多くはこの複製を観ます。もともと野外にあった本物は保存のため同じ市内のアカデミア美術館室内にあり、現地ガイド情報では入館に1時間以上かかるとのこと。あきらめざるを得ません。

本物はあきらめ、まずは腹ごしらえと中央市場の2階のフードコート(写真2)へ。そこは「ひろめ市場」を約3倍にひろめたもので、イタリア人らしき夫婦にシャッターを押してもらったりしていると、偶然にも同じツアーメンバーの夫婦とバッタリ。奥さんが「ダビデ像を観るため1時間待ったが、さすが本物!」と女性らしい感極まった表情とコメント。そこまで聞かされると行列覚悟で行くべしと、美術館に向かいました。着くと行列はなしの閉館時刻10分前。荷物チェックのおじさんが身振り手振りで「ノーチェック、早く入れ」とのことなので即、館内に。運よく、その日の最後の入館者となり、まばらな観光客に混じり艶のあるダビデ像を観ることができました。

さて、ミケランジェロといえば「最後の審判」(写真1上:大塚美術館の複製陶板絵)が有名で、これはバチカン市国の礼拝堂で実物を観ました。ただし、体格が勝る欧米人に被圧されながらの鑑賞です(写真撮影や大きな声の会話は×)。数百年を経たフレスコ画を制約のある鑑賞形態で観るよりは、大塚美術館のツヤツヤ陶板絵を自由に見たほうがルネサンス美への開眼度は大きいのでは…と思います。

実は絵に関して、この礼拝堂の隣にあるラファエロの「アテネの学堂」(部分 写真1右下:奥の中心人物がレオナルド・ダ・ビンチ、手前で頬杖の人物がミケランジェロとされる)があります。(残念ながらツアーコース外でした)

(2) 街散策 (フィレンツェ)

添乗員付きのツアーは、行先ごとに添乗員(旅行会社)作成の手作り地図が配られます。この地図、非常に役立つのでかの地ならではの名所をピックアップし、時間が許す限り足を向けます。



フィレンツェの街頭



写真1



写真2



写真3

その地図情報で世界最古の薬局がフィレンツェにあるというのを知り、地図をもとにウロウロしても（日本で見かけるような）薬局がありません。通りに面する店のカウンター越しに「サンタ・マリア・ノヴェッラ薬局はどこ？」と兄さんに聞くと、筋向いの重厚な木製ドアを指さしました。

その木製ドアから 10m ほどのエントランスを進むと、薬局というより古い博物館で、室内の壁際のみには置かれた重厚なショーケース以外はありません。（写真 3）女性店員の対応も、どことなく気高い（要するに不愛想）でしたが、記念にハンドクリーム 1 個に 4,000 円の大判振る舞いで重厚なドアを後にしました。



(3) 街散策（ローマ）

「アシモフの雑学コレクション」（星新一訳）の「古代の人々」の中に「プラトン（BC400 年代ギリシャ）は自分の弟子について『最近の若者はなんだ。目上の者を尊敬せず親に反抗。法律は無視。妄想にふけて、街であばれる。道徳心のかげらもない。このままだと、どうなる。』とあります。

古代も現代も道徳心は歴史と関係なく軽薄なのに、ローマの世界遺産は歴史を刻んだ重厚さがあります。

映画「ローマの休日」のロケ地になったいくつかの旧跡と、若かりしオードリー・ヘップバーンのイメージが重なるところに世界遺産+αがあるようです。

ということで、「トレヴィの泉」や「コロッセオ」（写真 4・5）はどのツアーに組み込まれ、観光客で賑わっています。

高い所からの遠望を写真に残すことは旅の目的の 1 つです。

現地ガイドからサンタンジェロ城（写真 6）がローマで観光客がはいることができる数少ない高い建物との情報をもとに、解散の後、何より先に向かいました。

牢獄にもなったことのある堅牢な石造で、薄暗い壁にある矢印に従い上層に向かいます。ところが、順路を間違っ逆戻りせざるを得なくなり、館内係員の女性にその旨伝えると立ち入り禁止の柵をサッと移動してもらったことは小さな感動モノでした。

ところで、ローマの道は場所によって高さの違う道が隣接し、地図上は 1 本の表示なので右往左往しました。

そんな苦労の後、添乗員おすすめのレストラン「モンテカルーズ」に向かいます。店の印象と料理の味が良く 2 日続けてこの店で食事をしました。その店の人のよさそうなウェイター（写真：ジェラートにホットチョコレートを注いでいる）が写真用にポーズを取ったところ、隣テーブルのイギリス人老夫婦がニヤニヤとしていました。



旅は見方によっては人生の縮図です。

楽しみ、失敗、トラブル、そして出会いと短い期間に多くが詰まっているとつくづく思いました。

県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者 一般社団法人高知県山林協会 川 渕 し の ぶ

少しずつ涼しくなってきました！

今年の夏も暑かったですねえ。昔は 30℃ 越えるともものすごく暑く感じていたけれど、今や 40℃ 超えも！毎年最高気温を更新し続け 30℃ すら涼しく感じてしまう近年ですが、地球温暖化に歯止めをかけて少しでも涼しい夏を取り戻したい！でもこんなに暑くても夏バテしなかった私…夏太りの身体のまま、食欲の秋に突入してしまいそれが悩みのタネとなっております。

そんな私の悩みはさておき、秋の甫喜ヶ峰にはかわいい花が続々と咲いております。ほんの一部ですがご紹介！

アケボノソウ



甫喜ヶ峰では 10 月頃に可憐な花を咲かせます。2 センチほどの小さな花ですが、少しクリーム色がかかった花冠を夜明けの空に、黒紫色や緑色の斑点を星に見立てて“夜明けの空”「曙草」の名前がつけられた、なんともロマンチックな花なのです。

アキノキリンソウ



薬効成分があり、痛風、リウマチ、関節炎、湿疹などの皮膚疾患、糖尿病や花粉症、喘息など色んな効果があるそうです。別名アワダチソウ。同じく黄色の花をつけ、このアキノキリンソウより背が高いことから名付けられた植物がセイタカアワダチソウ（北アメリカ原産）です。

キチジョウソウ



高さ 10 センチほどの茎に穂状につく小さな花ですが、よく見ると薄紅紫色の花が艶っぽいといふかなんともかわいいです。キチジョウソウは花が咲くと「幸せが訪れる！」とのいい伝えのある縁起のよい植物！見かけたら幸せを祈ってみてはいかがでしょうか？

コウヤボウキ



かつて和歌山県高野山では、この植物の枝を束ねて箒を作って掃除をしていたことが名前の由来となっています。花言葉は「清掃」「働き者」。甫喜ヶ峰ではこの花にアサギマダラがよくとまっています。

寒い冬が来る前に、花を愛でに秋晴れの甫喜ヶ峰に遊びに来てみませんか？

動 向

令和3年度林野庁公共事業予算概算要求

令和3年度の林野庁公共事業予算概算要求額は、林野公共事業費で対前年度比122.0%の2,232億円で、激甚な山地災害からの復旧とともに、地球温暖化に伴う豪雨の増加等を踏まえ、山地災害危険地区におけるレーザ計測による災害リスクの把握や治山施設の設置等のハード・ソフト一体的な対策、流木対策等を強化推進するとして治山事業費が741億円(122.0%)、森林資源の適切な管理と林業の成長産業化を実現し、国土強靱化や地球温暖化防止等にも貢献するため、間伐や主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良を推進するとして森林整備事業費が1,492億円(122.0%)となっている。

(一社) 高知県山林協会通常総会開催

山林協会は、令和2年度通常総会を8月28日ザ クラウンパレス新阪急高知で開催した。

総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止、安全確保を第一に考え作文・優良工事コンクールの表彰行事を中止し、来賓の方々はお招きしない形で行了しました。(総会の詳細は本文参照)

又、今回役員改選はありませんでしたので、執行体制は、前年通りです。(別表の通り)

(別表)

会 長 理 事	大石 弘秋	仁淀川町長
副 会 長 理 事	池田 三男	津野町長
副 会 長 兼 専 務 理 事	安岡 泰平	正会員以外
常 務 理 事	小野川岳仁	正会員以外
理 事	上村 誠	北川村長
理 事	法光院晶一	香美市長
理 事	和田 守也	土佐町長
理 事	森山 真二	梶原町森林組合長
理 事	中平 正宏	四万十市長
理 事	岡田 順一	大月町長
監 事	小田 保行	越知町長
監 事	山崎 出	馬路村長

表 紙 写 真

撮影場所 香美市土佐山田町
県立甫喜ヶ峰森林公園
【栗】
写真提供者 黒津 光世



日 程

10月16日 第13回協働の森フォーラム(高知市)

11月19日 日本林道協会総会、治山林道工事等コンクール表彰式(東京都)

森のテクノ〈No. 89〉2020年10月15日 発刊

発行 一般社団法人高知県山林協会

〒780-0046 高知市伊勢崎町8番24号 TEL 088-822-5331 FAX 088-875-7191
http://www.kochi-sanrin.jp/